

児童養護施設へスポーツ用品を贈呈

山梨県スポーツ専門店 協同組合

山梨県スポーツ専門店協同組合（組合員13社、中澤信二理事長）は、10月12日に児童養護施設の山梨県立甲陽学園を訪れ、子どもたちが施設等で使用するスポーツ用品を贈呈した。当日の贈呈式は、組合を代表して中澤信二理事長と雨宮敬明専務理事が出席し、井口敦人学園長にドッジボール、野球ボール、バドミントンのシャトルコックなどのスポーツ用品を手渡した。

この事業は、組合の上部団体である日本スポーツ用品協同組合連合会に所属する全国のスポーツ専門店の組合がそれぞれ実施しており、毎年10月の「スポーツの日」にあわせ、山梨県内の児童養護施設や養護学校などを選定し、

スポーツに関する用具を贈呈するもので、平成16年からスタートして今年で18回目となる。

中澤理事長は「今後もこの活動を続け

ていき、養護施設で学ぶ子どもたちにも一緒に学ぶ仲間とスポーツの楽しさや感動を感じてもらうことができれば嬉しい。」と語った。

近年は、少子化や新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ人口は以前と比べ大幅に減少している。特に新型コロナウイルス拡大の影響は、人との接触を避ける観点から、学校での部活動や地域のスポーツ少年団に関係したスポーツイベントなどの自粛に至り、若年者にスポーツ用品を提供する業界にとっては深刻な経営課題となっている。また、全国の小中学生を対象とする令和3年の「全国体力・運動能力調査」の結果では、持久走やボール投げなど様々な競技の成績が男女ともに大きく下げた結果となっており、体力の低下や運動不足が顕著となっている。

子ども達が心身ともに健康であるためには体を動かすことはとても大切なことであり、またスポーツは仲間との協調性を学ぶ機会でもある。組合では、感染対策をしっかりと行い、様々なスポーツ活動の再開を願うとともに、業界としてもニーズに沿ったスポーツ用品やサービスの提供を行っていききたいとしている。



贈呈の様子
中澤理事長(左)、雨宮専務理事(中)
井口学園長(右)



担当：清水